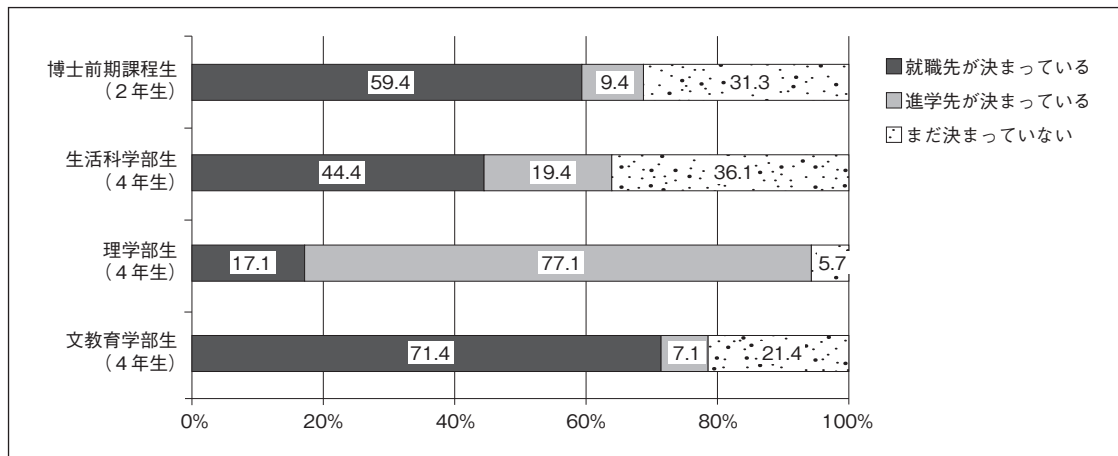


図表1-2 就職・進学先の決定状況（学部・専攻別）



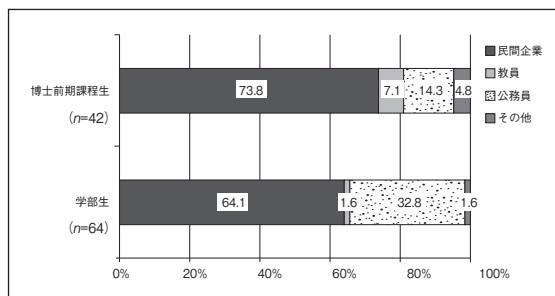
学部、専攻別では、就職先が決まっていると回答した者は、文教育学部生71.4%、理学部生17.1%、生活科学部生44.4%、博士前期課程生59.4%であった。進学先が決まっていると回答した者は、文教育学部生7.1%、理学部生77.1%、生活科学部生19.4%、博士前期課程生9.4%であった。まだ決まっていないと回答した者は、文教育学部生21.4%、理学部生5.7%、生活科学部生36.1%、博士前期課程生31.3%であった。このことから、学部、専攻別に見ると、文教育学部生では就職先が決まっている割合が7割程度と高く、理学部生では進学先が決まっている割合が8割程度と高い一方、生活科学部生、博士前期課程生では「就職先が決まっている」、「進学先が決まっている」を合わせても7割程度と低い傾向が示された。

文部科学、厚生労働省によれば、2011年10月時点の大学生の就職内定率（就職希望者に占める内定取得者の割合）は、全体では59.9%、国公立では67.4%、女子では57.7%となっている。上述した本学の結果は、全体における内定者の割合であり、就職希望者に占める割合ではないものの、本学の内定者の割合は、学部、専攻間で大きく違いが見られ、その割合は、総じて高いとはいえないと考えられる。

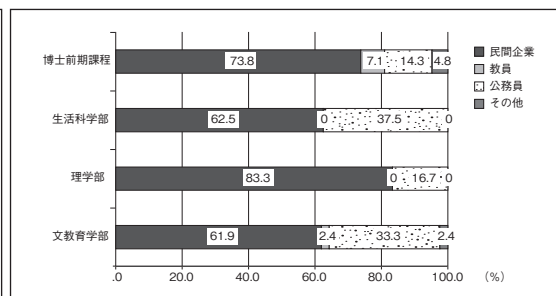
次に、就職先が決まっていると回答した者のみを対象に、就職先の内訳を「1 民間企業」「2 教員」「3 公務員」「4 その他」の4肢択一で回答を求めた。結果を図表1-2に示す。

さらに、進学先が決まっていると回答した者のみを対象に、進学先を「1 お茶の水女子大学」「2 お茶の水女子大学以外」の2肢択一で回答を求めた。結果を図表1-3～6に示す。

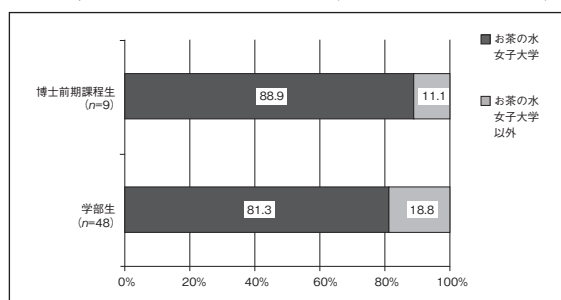
図表1-3 就職先の内訳（学部全体・専攻別）



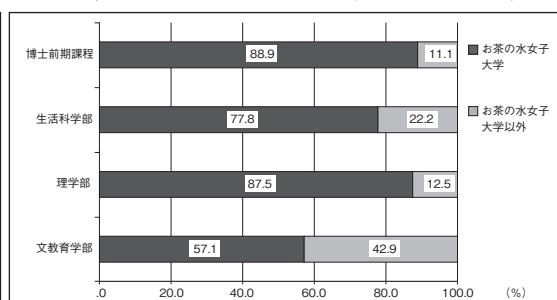
図表1-4 就職先の内訳（学部・専攻別）



図表1-5 進学先の内訳（学部全体・専攻別）



図表1-6 進学先の内訳（学部・専攻別）



就職先について、学部生全体では、民間企業64.1%、教員1.6%、公務員32.8%、その他1.6%であり、博士前期課程生では、民間企業73.8%、教員7.1%、公務員14.3%、その他4.8%であった。

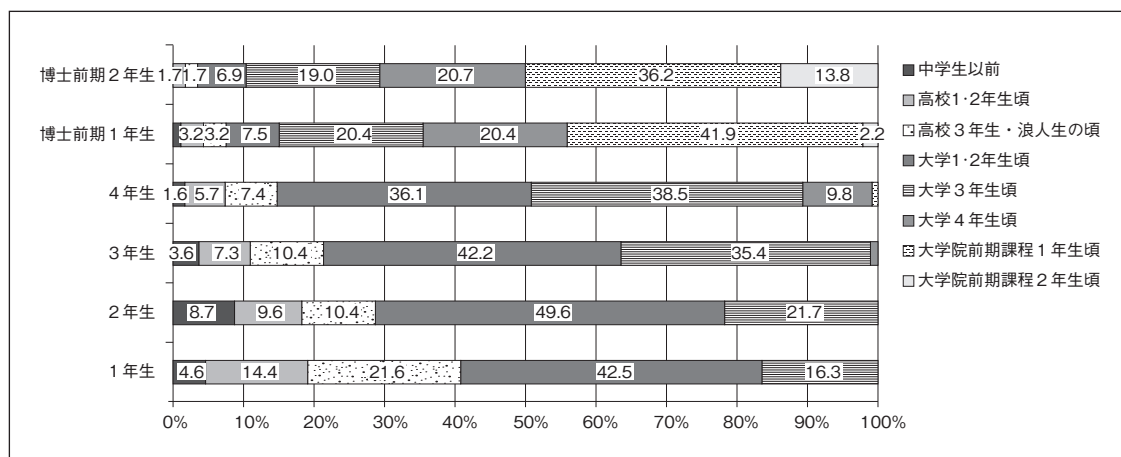
Benesse教育研究開発センター（2005）の全国の学部生を対象とした調査によれば、女子では、民間企業45%、教員9.3%、公務員11.1%、進学9.5%、その他8.7%であり、本学の学部生は、公務員の比率が高く、博士前期課程生は民間企業の比率が高いことがわかる。

また、進学について、学部生全体では、お茶の水女子大学への進学81.3%、お茶の水女子大学以外への進学18.8%であり、博士前期課程生では、それぞれ88.9%、11.1%であった。これらの結果から、学部生、博士前期課程生共に、お茶の水女子大学への進学率が圧倒的に高いといえる。

2) 進路を考え始めた時期

大学卒業後（大学院前期課程生は、前期課程修了後）の進路を、いつ頃から考え始めたかについて、「1 中学生以前」「2 高校1・2年生頃」「3 高校3年生・浪人生の頃」「4 大学1・2年生頃」「5 大学3年生頃」「6 大学4年生頃」「7 大学院前期課程1年生頃」「8 大学院前期課程2年生頃」「9 それ以降」の9肢択一で回答を求めた。結果を図表1-7に示す。

図表1-7 進路を考え始めた時期（学年別）



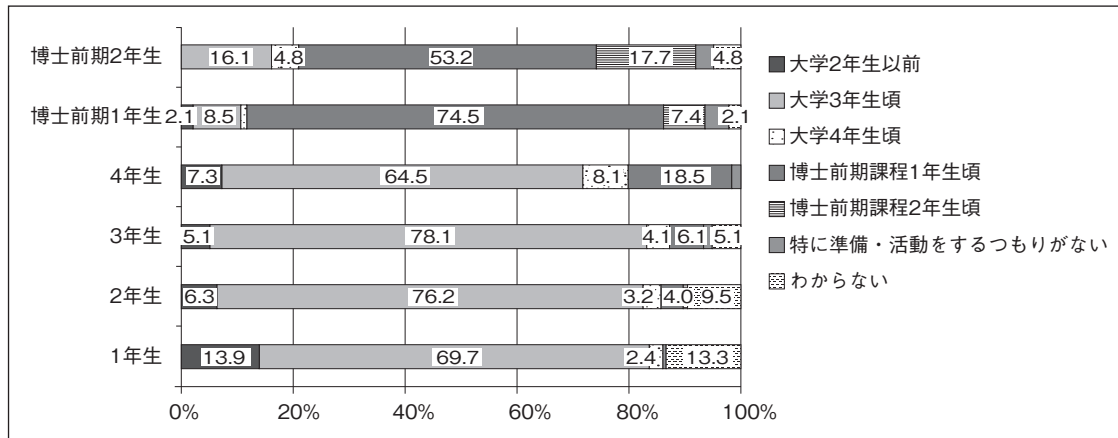
学部生では、いずれの学年でも大学1・2年生頃が最も多い。博士前期課程生では、大学院前期課程1年生頃が多いが、次いで、大学4年生頃、大学3年生頃も多く、学部卒業にあたり進路を考えたのち、博士前期課程において、再度進路について考えている様子が見える。

Benesse教育研究開発センター（2008）の学部生を対象とした調査によれば、進路を考え始めた時期は、大学1・2年生が32.2%で最も多く、次いで、大学3年生頃25.9%、高校3年生頃16.0%となっており、本学の学部生の結果と同様の傾向といえる。

3) 進路に向けた準備・活動を始めた時期

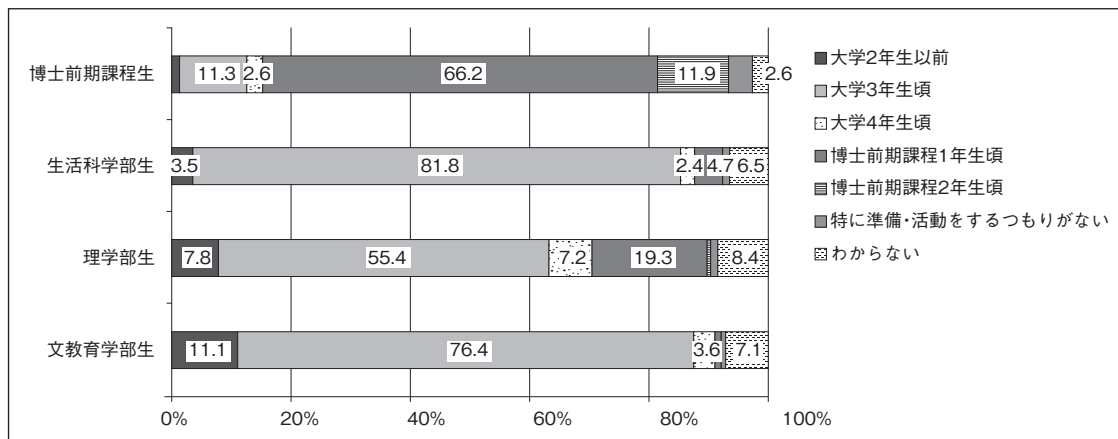
大学卒業後（大学院前期課程生は、前期課程修了後）の進路に向けた準備・活動（就職ガイダンスなどへの参加ではなく、企業訪問やOG訪問など、自分で積極的に動く活動）をいつ頃から始めるかについて、「1 大学2年生以前」「2 大学3年生の前期」「3 大学3年生の夏休み」「4 大学3年生の後期」「5 大学4年生の前期」「6 大学4年生の夏休み」「7 大学4年生の後期」「8 大学院前期課程1年生の前期」「9 大学院前期課程1年生の夏休み」「10 大学院前期課程1年生の後期」「11 大学院前期課程2年生の前期」「12 大学院前期課程2年生の夏休み以降」「13 特に準備・活動をするつもりがない」「14 わからない」の14肢択一で回答を求めた。選択肢が多いため、選択肢を合成し、「1 大学2年生以前」「2 大学3年生頃」「3 大学4年生頃」「4 大学院前期課程1年生頃」「5 大学院前期課程2年生頃」「6 特に準備・活動をするつもりがない」「7 わからない」として、結果を図表1-8に示す。

図表1-8 進路に向けた準備・活動を始めた時期（学年別）



学部生では、いずれの学年でも大学3年生頃が最も多く、博士前期課程生では、博士前期課程1年生頃が多い。Benesse教育研究開発センター（2008）の学部生を対象とした全国調査によれば、大学3年生頃が65.1%と最も多く、本学の学部生の結果と同様の傾向といえる。次に、学部、専攻別に結果を示す。

図表1-9 進路に向けた準備・活動を始めた時期（学部・専攻別）

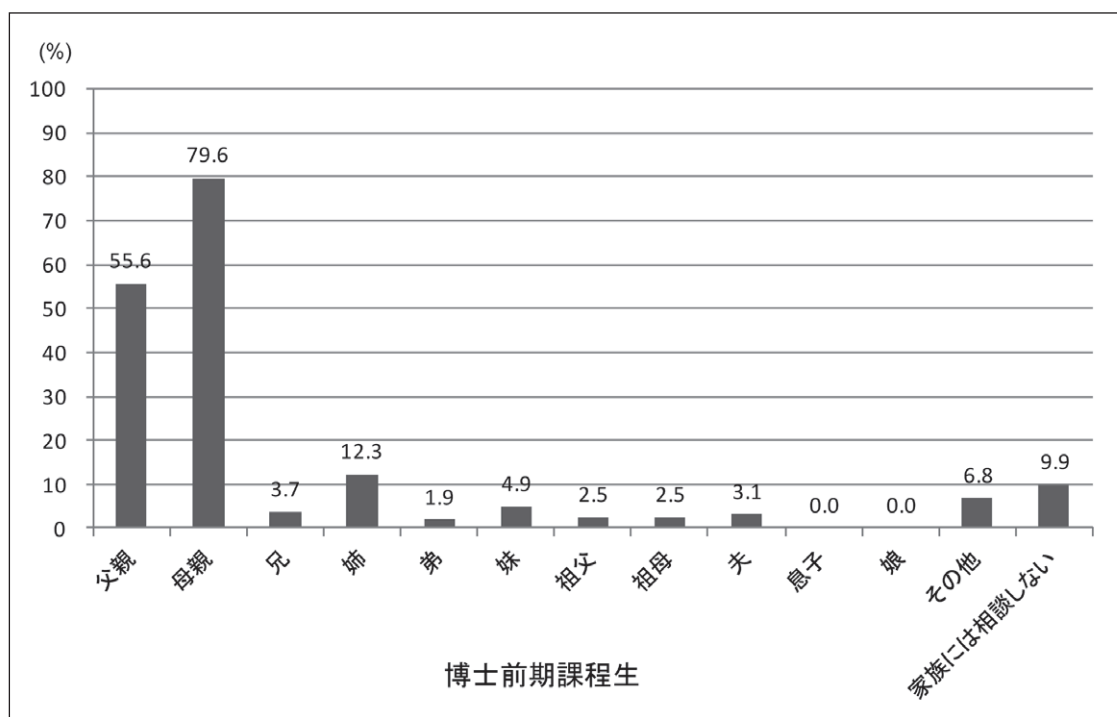
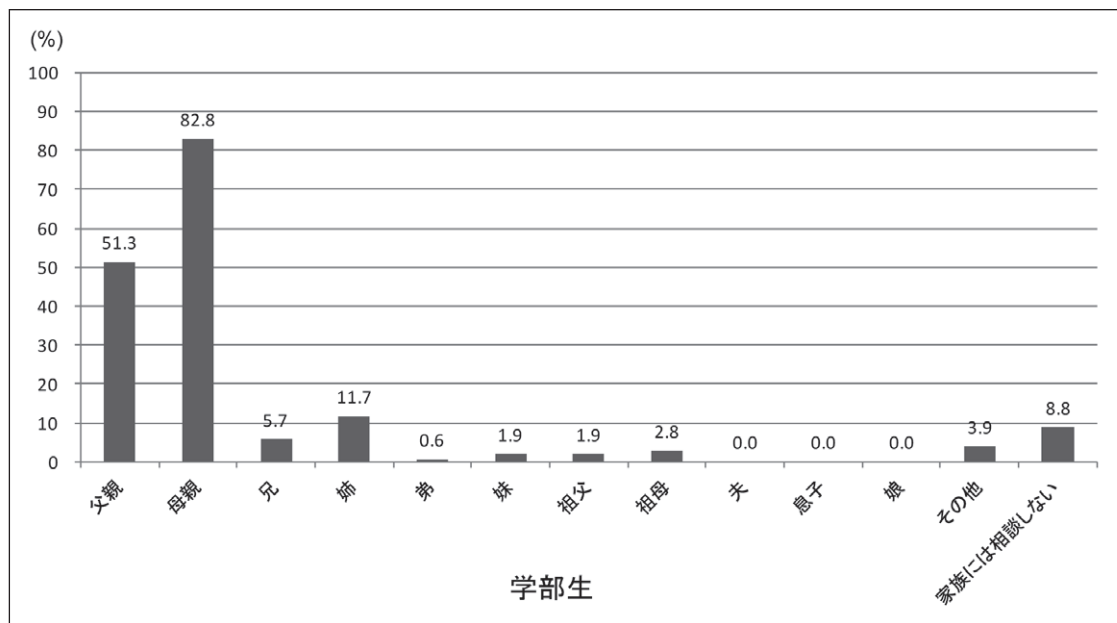


学部、専攻別でも同様の結果であり、学部生では大学3年生頃がもっとも多く、博士前期課程生では、博士前期課程1年生頃がもっとも多い。なお、理学部生では、博士前期課程1年生頃も19.3%と多いが、これは、理学部生では博士前期課程生へ進学する割合が多いためと考えられる。

4) キャリアについて家族の誰に相談するか

就職・進学などのキャリアについて、家族の中で、誰に相談するかについて、「1 父親」「2 母親」「3 兄」「4 姉」「5 弟」「6 妹」「7 祖父」「8 祖母」「9 夫」「10 息子」「11 娘」「12 その他」「13 家族には相談しない」の13肢の中から複数回答可として回答を求めた。結果を図表1-10に示す。

図表1-10 キャリアについて家族の誰に相談するか



学部生、博士前期課程生とも、母親が最も多く（それぞれ82.8%、79.6%）、次いで父親が多かった（それぞれ51.3%、55.6%）。一方、家族には相談しないというものも学部生で8.8%、博士前期課程生で9.9%いることが示された。

お茶の水女子大学の「新入生の生活に関する調査」（2010）によれば、就職や将来のことに関する父親の関与は49.2%、母親の関与は60.1%となっている。このことから、大学入学時期の保護者の関与は、大学入学後も継続しており、大学在学中に就職や将来のことがより現実問題として見えてくる中で、保護者の関与も増える傾向が示されている。

また、産業能率大学（2008）の大学生を対象とした全国調査によれば、自分の進路（受験、就職活動）を決める際の相談相手として、母親は22.8%、父親は11.7%となっている。本学の結果と比較すると、本学の保護者は、子どもの就職・進学などのキャリアについての関心が非常に高いといえる。したがって、今後は、学生への支援にあわせて、保護者への支援（例えば、就職状況や、本学のキャリア支援についての情報提供を行うなど）も行っていくことが求められているといえよう。

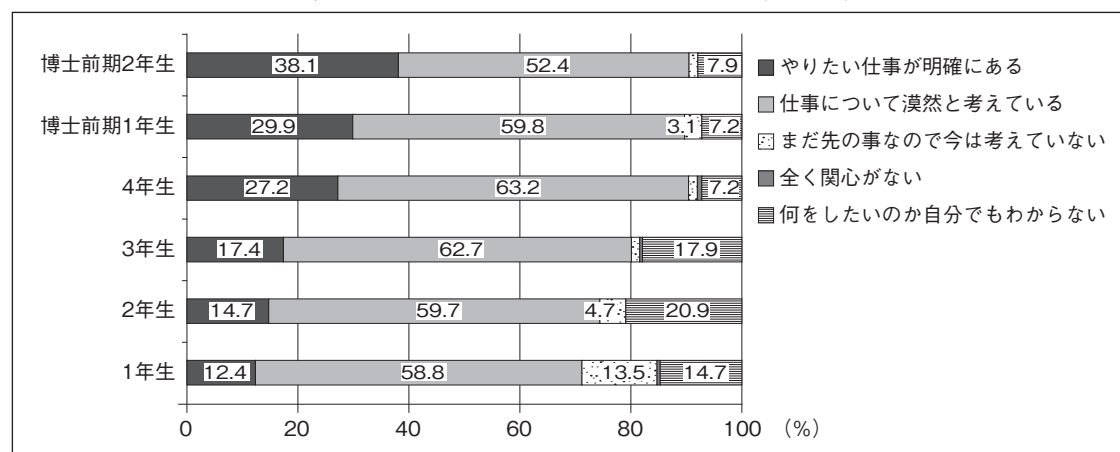
(2)キャリア意識について

本節では、①将来のキャリアに対する意識、②希望する進路、③希望する産業、④希望する就業形態、⑤企業規模の志向、⑥就職先を決めるとき重視すること、⑦自分や職業に対する意識、⑧結婚と仕事への価値観を示す。

1) 将来のキャリアに対する意識

将来の職業などのキャリアについて、「1 やりたい仕事がある」「2 仕事について漠然と考えている」「3 まだ先の事なので今は考えていない」「4 全く関心がない」「5 何をしたいのか自分でもわからない」の5肢択一で回答を求めた。結果を図表1-11に示す。

図表1-11 将来のキャリアに対する意識（学年別）

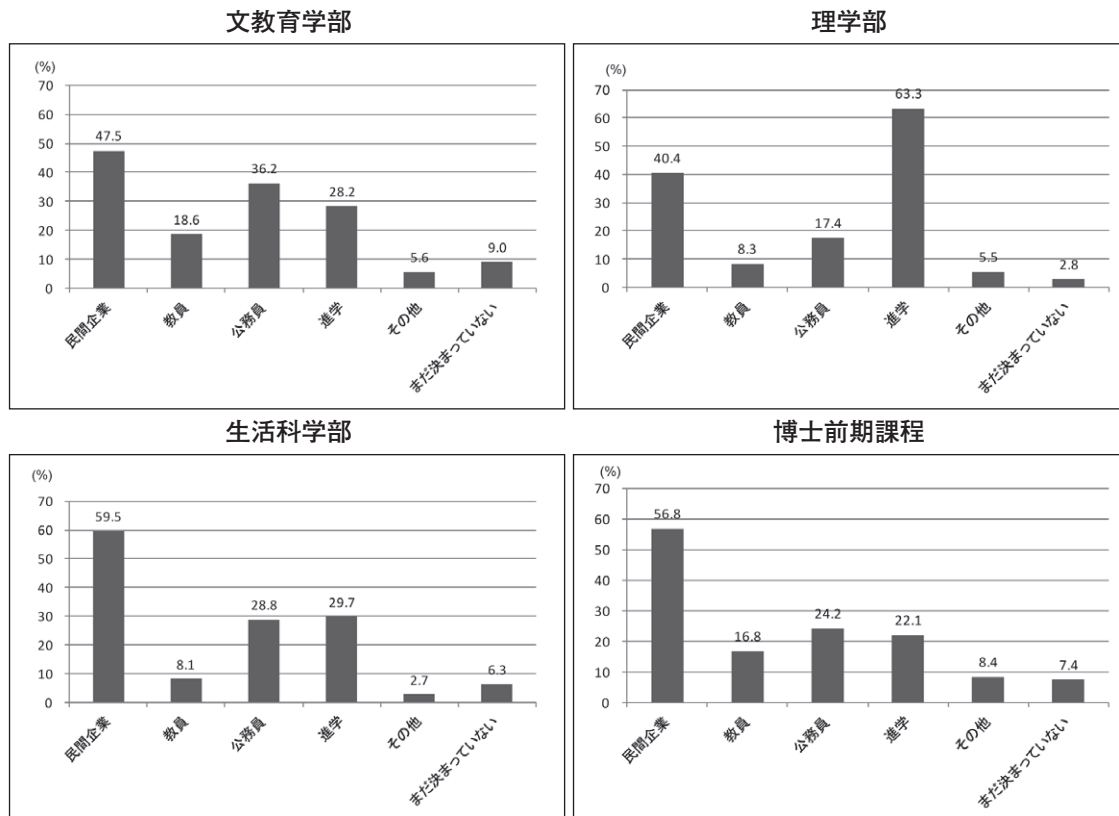


学年別に見ると、学部生、博士前期課程生共に、学年が上がるにつれ、「やりたい仕事がある」の比率が高くなっており、将来のキャリアがより明確になっていくものと考えられる。ただし、全ての学年で、「仕事について漠然と考えている」が最も多いことから、学部4年生や博士前期課程2年生で内定が出ている学生でも、仕事についての明確なイメージがもてない場合も多いと考えられる。産業能率大学（2008）の大学生を対象とした全国調査によれば、「やりたい仕事がある」30.3%、「仕事について漠然と考えている」50.7%であり、本学の学部生の結果と比較すると、本学の学部生のほうが「やりたい仕事がある」の割合が低い。このことから、本学の学生は、やりたい仕事のイメージが明確にもてない学生の比率が多いことがうかがえる。このことは、就職活動の出足の悪さや積極性を阻む要因となる可能性も考えられる。したがって、キャリア教育を行う際には、各業種の具体的な職種や仕事内容などがイメージできるような取り組みも必要ではないだろうか。

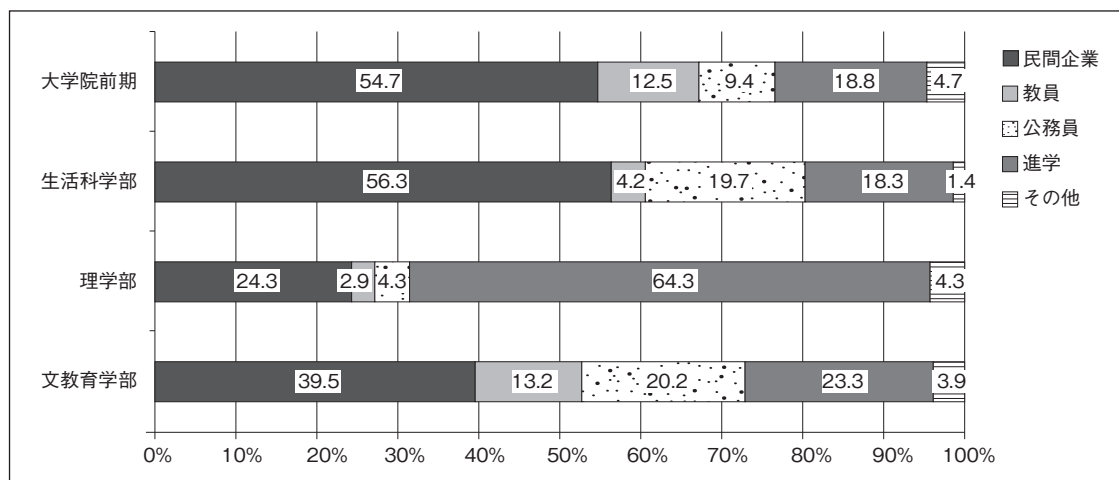
2) 希望する進路

まだ就職・進学先が決まっていない人を対象に、大学卒業後の希望進路を「1 民間企業」「2 教員」「3 公務員」「4 進学」「5 その他」「6 まだ決まっていない」から、あてはまるものを複数回答可として回答を求めた。さらに、一番希望するものを一つ尋ねた。結果を図表1-12、1-13に示す。

図表1-12 希望する進路（学部・専攻別）



図表1-13 一番希望する進路（学部・専攻別）



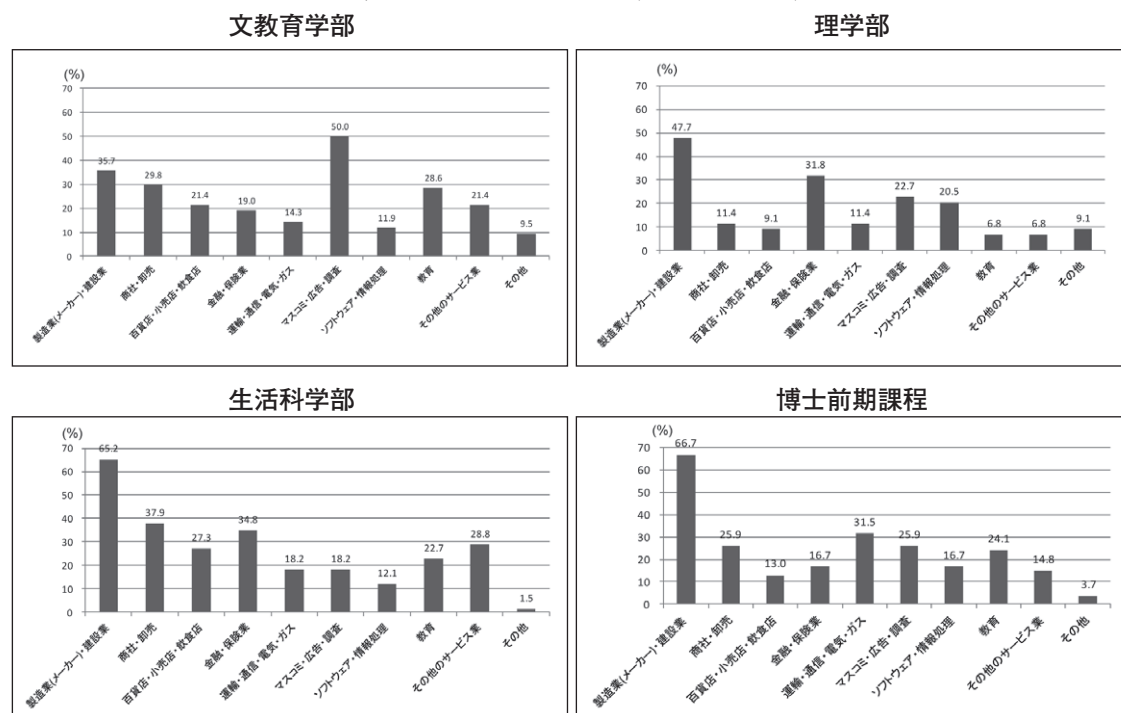
最も希望が多い進路を学部・専攻別に見ると、文教育学部生では民間企業（47.5%）、理学部生では進学（63.3%）、生活科学部生では民間企業（59.5%）、博士前期課程生では民間企業（56.8%）であった。一番希望する進路も、同様の傾向が見られた。

Benesse教育研究開発センター（2005）の全国の学部生を対象とした調査によれば、女子の希望進路では、民間企業45%、教員9.3%、公務員11.1%、進学9.5%、その他8.7%であり、本学の学部生の結果と比較すると、本学では、内定者の結果（「1）就職・進学先の決定状況」p4～5参照）と同様に、公務員や進学を希望する割合が高いことがわかる。特に、理学部では進学を希望する割合が圧倒的に高いことも、本学の特徴の一つといえる。

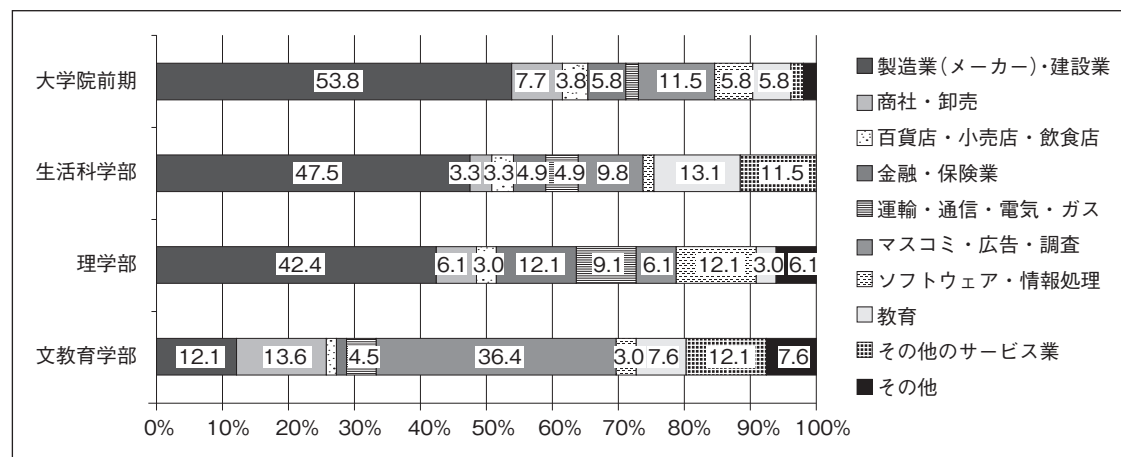
3) 希望する産業

先述した2)で「1 民間企業」を選んだ人を対象に、どんな産業に進みたいかについて、「1 製造業（メーカー）・建設業」「2 商社・卸売」「3 百貨店・小売店・飲食店」「4 金融・保険業」「5 運輸・通信・電気・ガス」「6 マスコミ・広告・調査」「7 ソフトウェア・情報処理」「8 教育」「9 その他のサービス業」「10 その他」から、あてはまるものを複数回答可として回答を求めた。さらに、一番希望するものを一つ尋ねた。結果を図表1-14、1-15に示す。

図表1-14 希望する産業（学部・専攻別）



図表1-15 一番希望する産業（学部・専攻別）



最も希望が多い産業を学部・専攻別に見ると、文教育学部ではマスコミ・広告・調査（50.0%）、理学部では製造業・建設業（47.7%）、生活科学部では製造業・建設業（65.2%）、博士前期課程では製造業・建設業（66.7%）であった。一番希望する進路も、同様の結果であった。

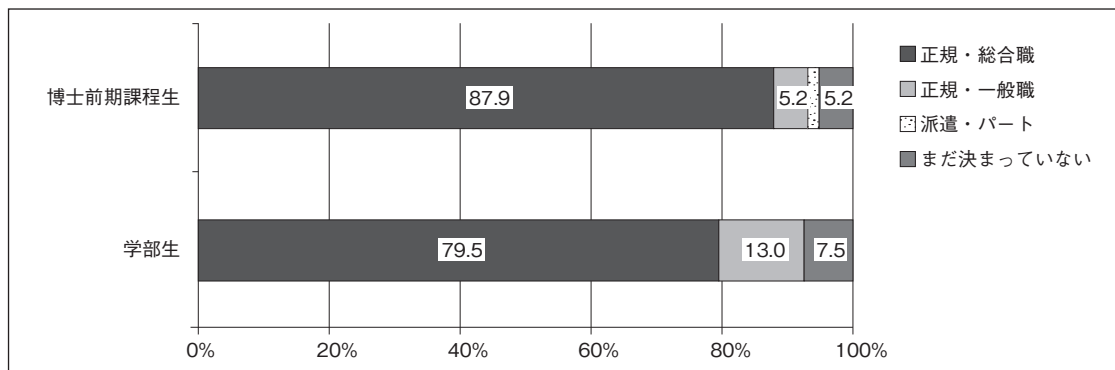
Benesse教育研究開発センター（2005）の全国の学部生を対象とした調査によれば、女子の希望業種では、製造業・建設業35.9%、情報通信業（電話、放送、出版、新聞、情報サービス、本調査のマスコミ・広告・調査にあたる）23.4%の順に高く、本学の調査結果と同様の傾向が認められる。また、本学の特徴として、理学部では金融・保険業の比率が高く、

理学部以外では、教育の比率が高いことも挙げられる。

4) 希望する就業形態

先述した2)で「1 民間企業」を選んだ人を対象に、どのような就業形態で働くことを希望しているかについて、「1 正規・総合職」「2 正規・一般職」「3 派遣・パート」「4 まだ決まっていない」の4肢択一で回答を求めた。結果を図表1-16に示す。

図表1-16 希望する就業形態



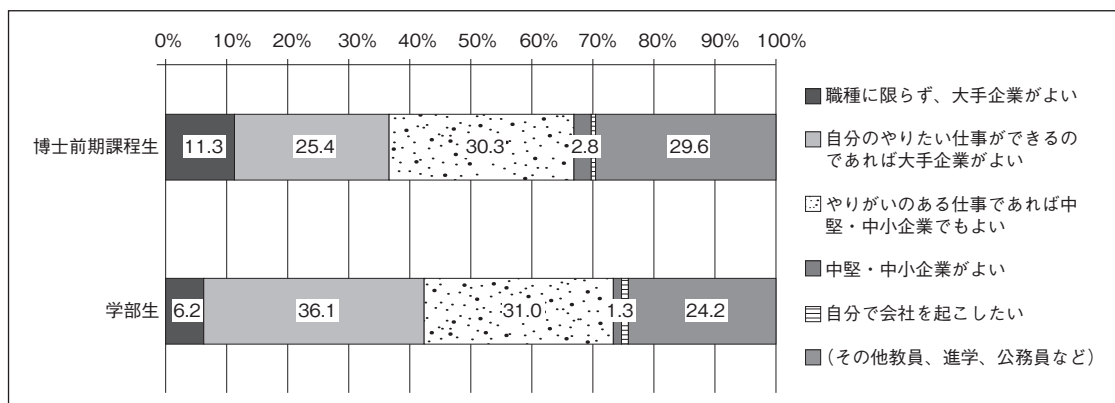
学部生、博士前期課程生共に、正規・総合職（それぞれ79.5%、87.9%）を希望する割合が圧倒的に高いことが示された。

リクルート（2009）の全国調査によれば、女子では総合職希望59.2%、一般職希望55.7%（複数回答可）となっており、本学の結果を見ると、総合職を希望する割合が大きく上回っているといえる。

5) 企業規模の志向

どのような規模の企業で働くことを希望しているかについて、「1 職種に限らず、大手企業がよい」「2 自分のやりたい仕事ができるのであれば大手企業がよい」「3 やりがいのある仕事であれば中堅・中小企業でもよい」「4 中堅・中小企業がよい」「5 自分で会社を興したい」「6 その他（教員、進学、公務員など）」の6肢択一で回答を求めた。結果を図表1-17に示す。

図表1-17 企業規模の志向



学部生、博士前期課程生共に、「自分のやりたい仕事ができるのであれば大手企業がよい」36.1%、25.4%、「やりがいのある仕事であれば中堅・中小企業でもよい」31.0%、30.3%、「その他」24.2%、29.6%が多いことが示された。

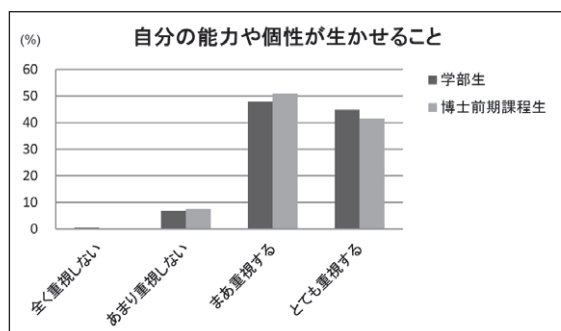
マイコミ（2010）の全国調査によれば、「大手企業がよい」7.8%、「自分のやりたい仕事ができるのであれば大手企業がよい」39.2%、「やりがいのある仕事であれば中堅・中小企業でもよい」43.4%、「中堅・中小企業がよい」4.2%、「自分で会社を起こしたい」0.7%、「その他」4.8%となっている。本学の結果と比較すると、大手企業、中小企業志向に大き

な違いは見られないが、本学では、「その他」の割合が多く、教員、進学、公務員などを希望する割合が高いといえる。したがって、民間企業への就職支援にあわせて、こうした進路を希望する学生への支援も行っていく必要があると考えられる。

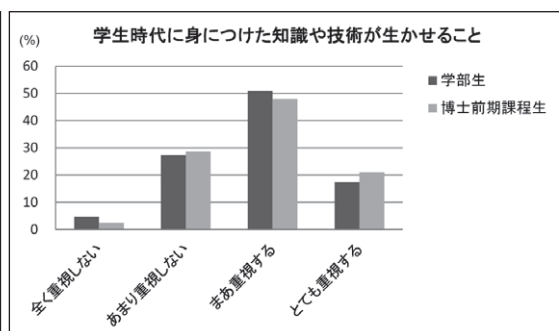
6) 就職先を決めるとき重視すること

就職先を決めるとき、次のようなことをどの程度重視するかについて、「1 全く重視しない」「2 あまり重視しない」「3 まあ重視する」「4 とても重視する」の4肢択一で回答を求めた。結果を図表1-18～35に示す。

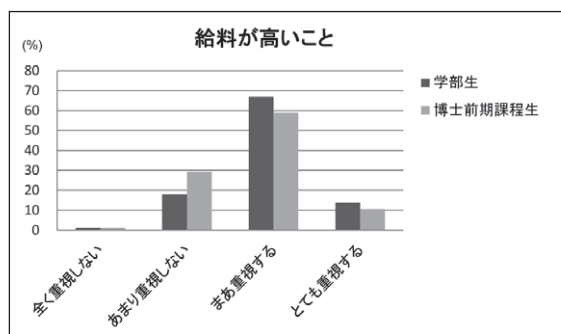
図表1-18



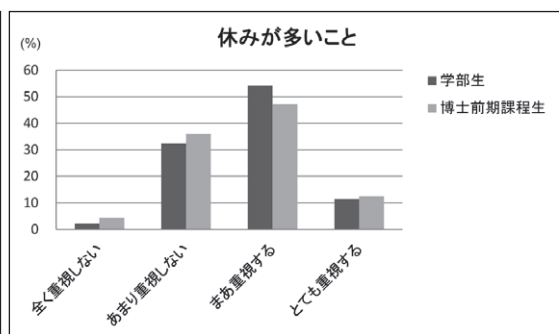
図表1-19



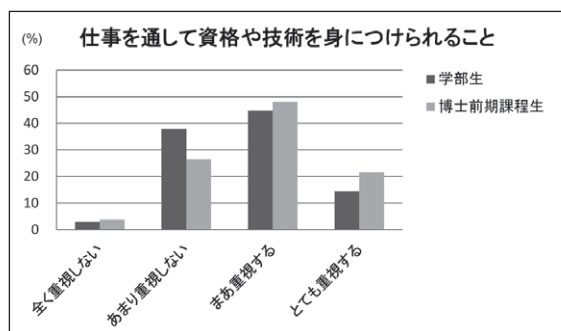
図表1-20



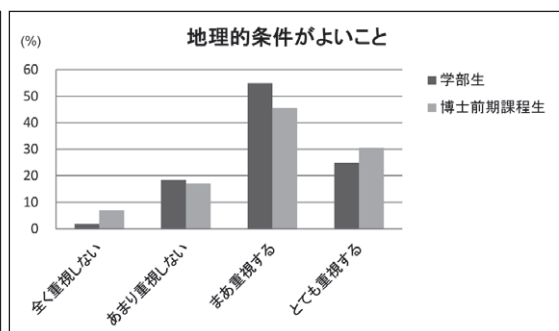
図表1-21



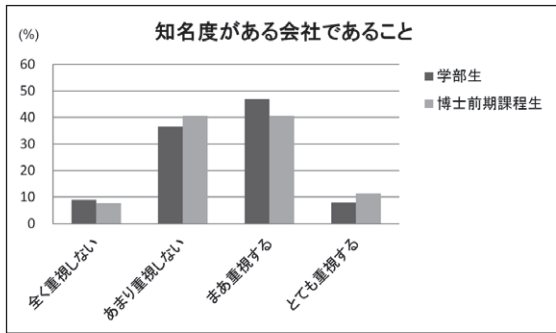
図表1-22



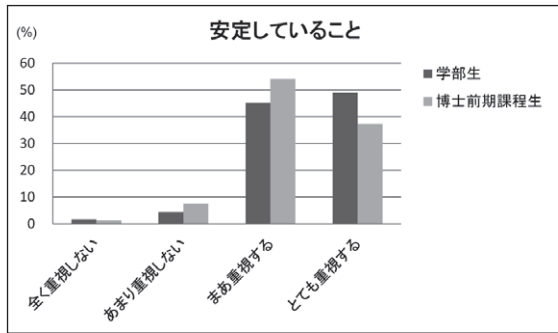
図表1-23



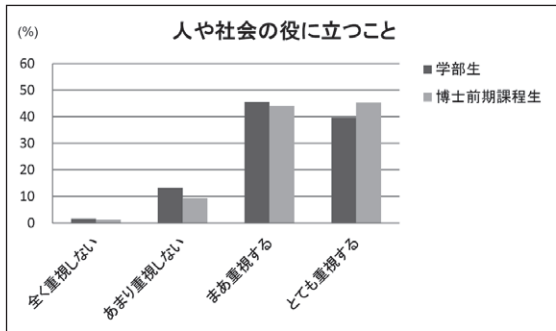
図表1-24



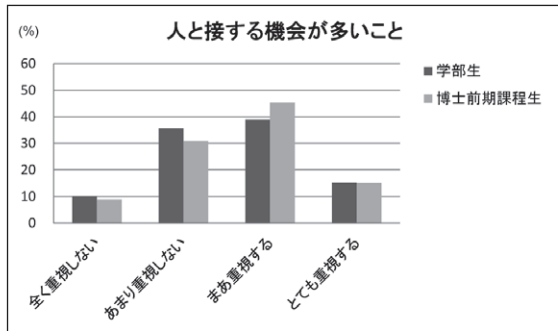
図表1-25



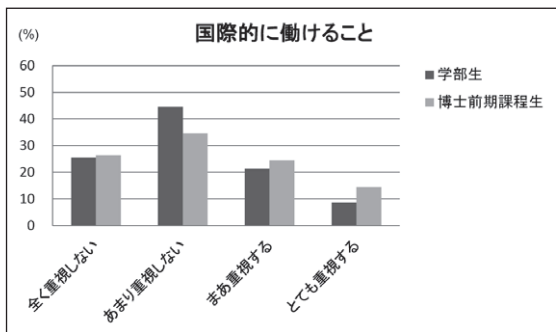
図表1-26



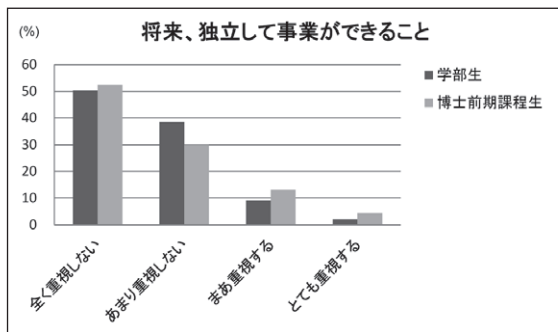
図表1-27



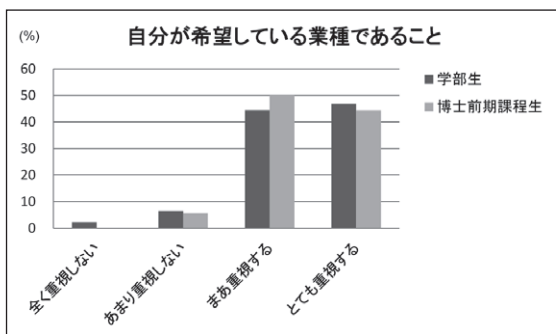
図表1-28



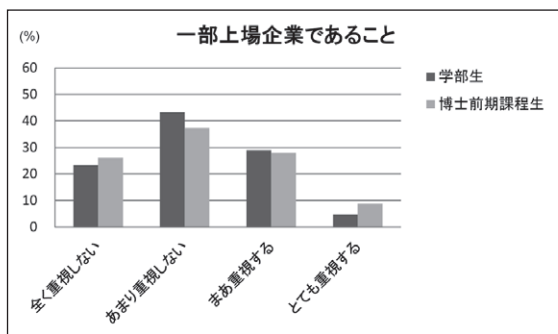
図表1-29



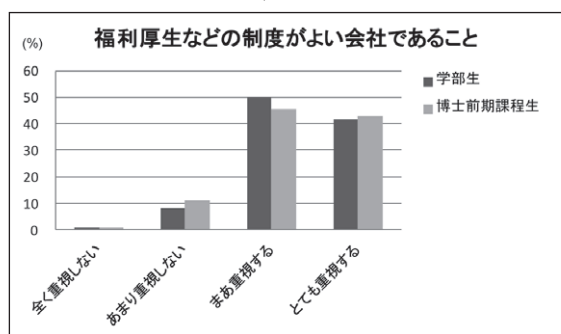
図表1-30



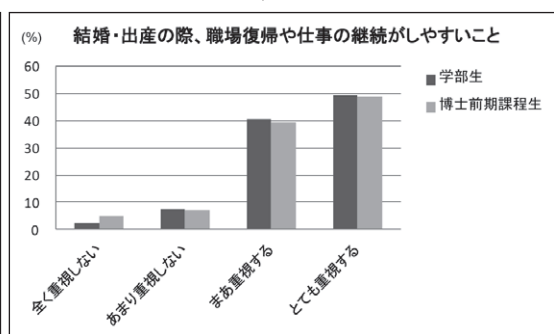
図表1-31



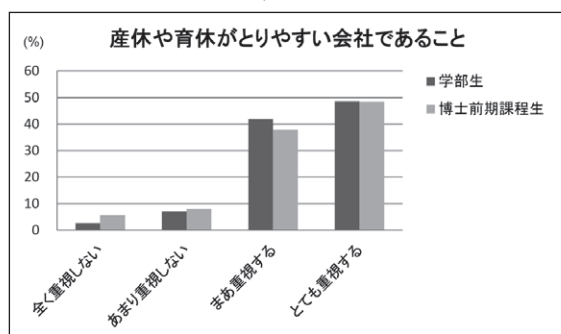
図表1-32



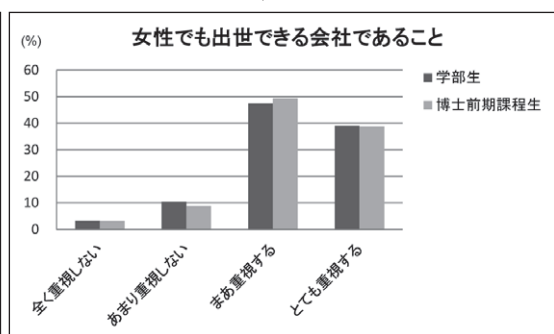
図表1-33



図表1-34



図表1-35



学部生、博士前期課程生を比較すると、両者に大きな差異はなく、同様の傾向があるといえる。

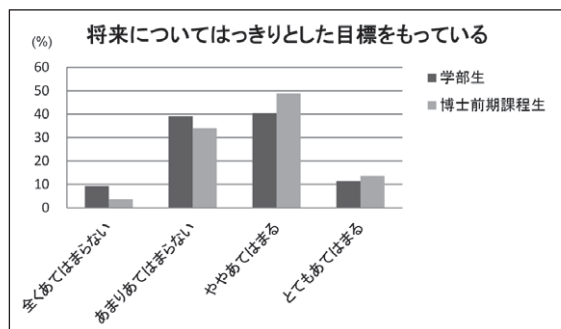
「まあ重視する」「とても重視する」を合わせて90%以上の項目は、「自分の能力や個性が生かせること」、「安定していること」、「自分が希望している業種であること」、「結婚・出産の際、職場復帰や仕事の継続がしやすいこと」であった。このことから、これらの項目は、就職先を決める際、特に重要性が高いものと考えられる。一方、「全く重視しない」「あまり重視しない」が50%以上の項目は、「国際的に働けること」「将来独立して事業ができること」であった。このことから、これらの項目については、本学の学生の関心が比較的低いものと考えられる。

Benesse教育研究開発センター（2005）の全国の学部生を対象とした調査の結果でも、本学の結果と同様の傾向が認められている。したがって、学生が就職先を検討する際に、こうした企業の情報を入手できるよう、ガイダンスやセミナー、就職情報資料室での情報提供を行っていくことが望ましいだろう。

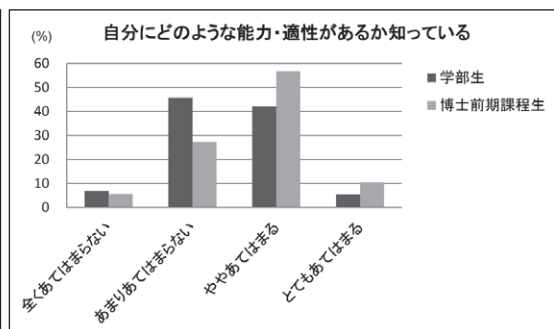
7) 自分や職業に対する意識

自分や職業に対する意識について、「1 全くあてはまらない」「2 あまりあてはまらない」「3 ややあてはまる」「4 とてもあてはまる」の4肢択一で回答を求めた。結果を図表1-36～41に示す。

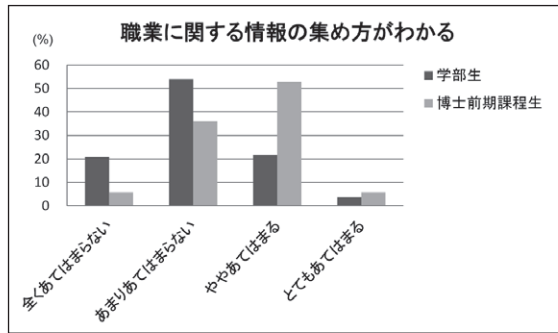
図表1-36



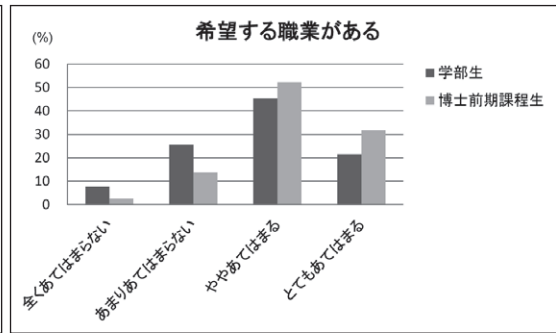
図表1-37



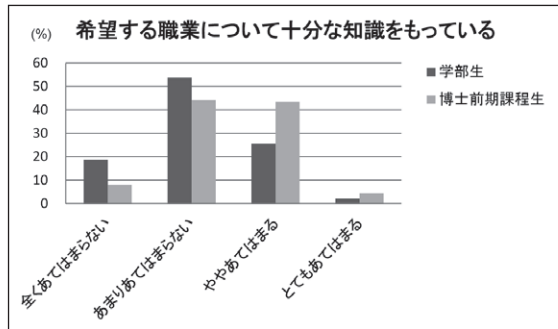
図表1-38



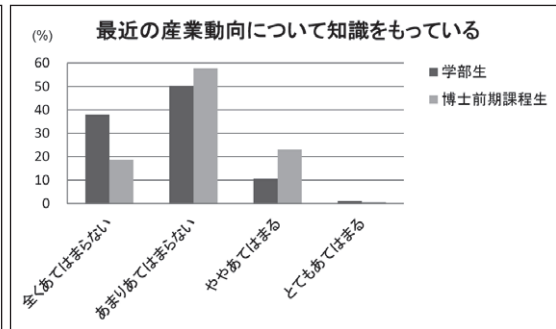
図表1-39



図表1-40



図表1-41



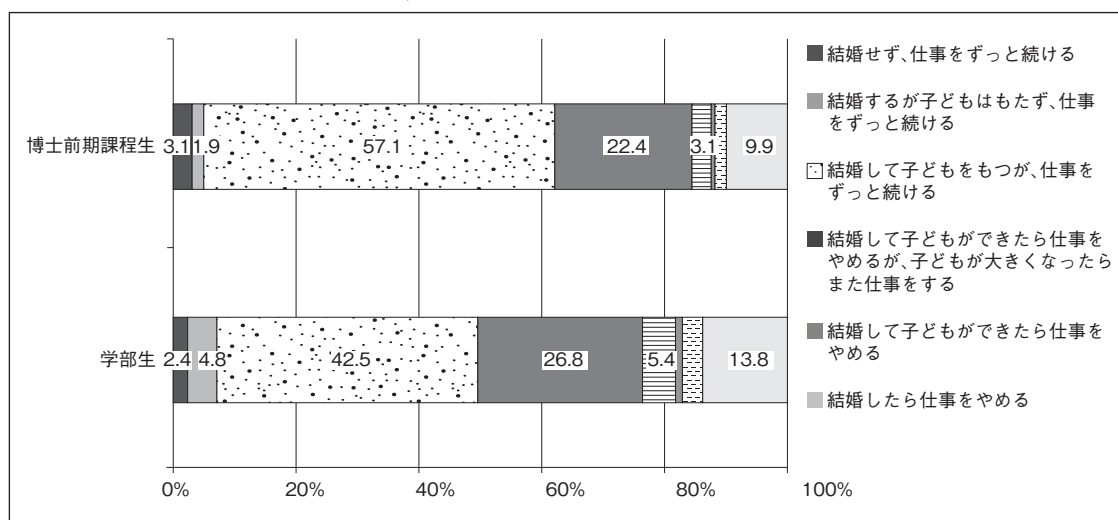
「全くあてはまらない」「あまりあてはまらない」の合計得点と「ややあてはまる」「とてもあてはまる」の合計得点を算出し、学部生と博士前期課程生の得点を比較した。その結果、差異が認められた項目は、「自分にどのような能力・適性があるか知っている」、「職業に関する情報の集め方がわかる」、「希望する職業がある」であり、全ての項目で、博士前期課程生より学部生のほうが、あてはまる割合が低かった。

Benesse教育研究開発センター（2005）の調査結果と本学の学部生の結果を比較すると、「職業に関する情報の集め方がわかる」、「希望する職業について十分な知識をもっている」で差異が見られ、どちらも全国調査より本学の学部生のほうが、あてはまる割合が低かった。この結果は、一概に能力の差異とは断定できないものの、本学の学生が、自身のこうした能力に自信をもっていないということはいえるだろう。したがって、こうした支援を行うことで、学生に自信をもたせ、キャリアに関する活動の意欲を高めていくことも必要であろう。

8) 結婚と仕事への価値観

結婚と仕事への価値観について、「1 結婚せず、仕事をずっと続ける」「2 結婚するが子どもはもたず、仕事をずっと続ける」「3 結婚して子どもをもつが、仕事をずっと続ける」「4 結婚して子どもができたら仕事をいったんやめるが、子どもが大きくなったらまた仕事をする」「5 結婚して子どもができたら仕事をやめる」「6 結婚したら仕事をやめる」「7 結婚するつもりはない」「8 結婚について、まだ考えていない」の8肢択一で回答を求めた。結果を図表1-42に示す。

図表1-42 結婚と仕事への価値観



学部生、博士前期課程生共に、「結婚して子どもをもつが、仕事をずっと続ける」（それぞれ42.5%、57.1%）が最も多く、次いで「結婚して子どもができたら仕事をいったんやめるが、子どもが大きくなったらまた仕事をする」（それぞれ26.8%、22.4%）であった。

お茶の水女子大学リーダーシップ養成教育研究センター（2010）のお茶大の卒業生を対象とした調査によれば、結婚と仕事への価値観として、「結婚して子どもをもつが、仕事も一生続ける」が最も多いことが示されている。このような結婚も仕事も子育てもという志向は、お茶大生のキャリア意識の特徴の一つといえるだろう。

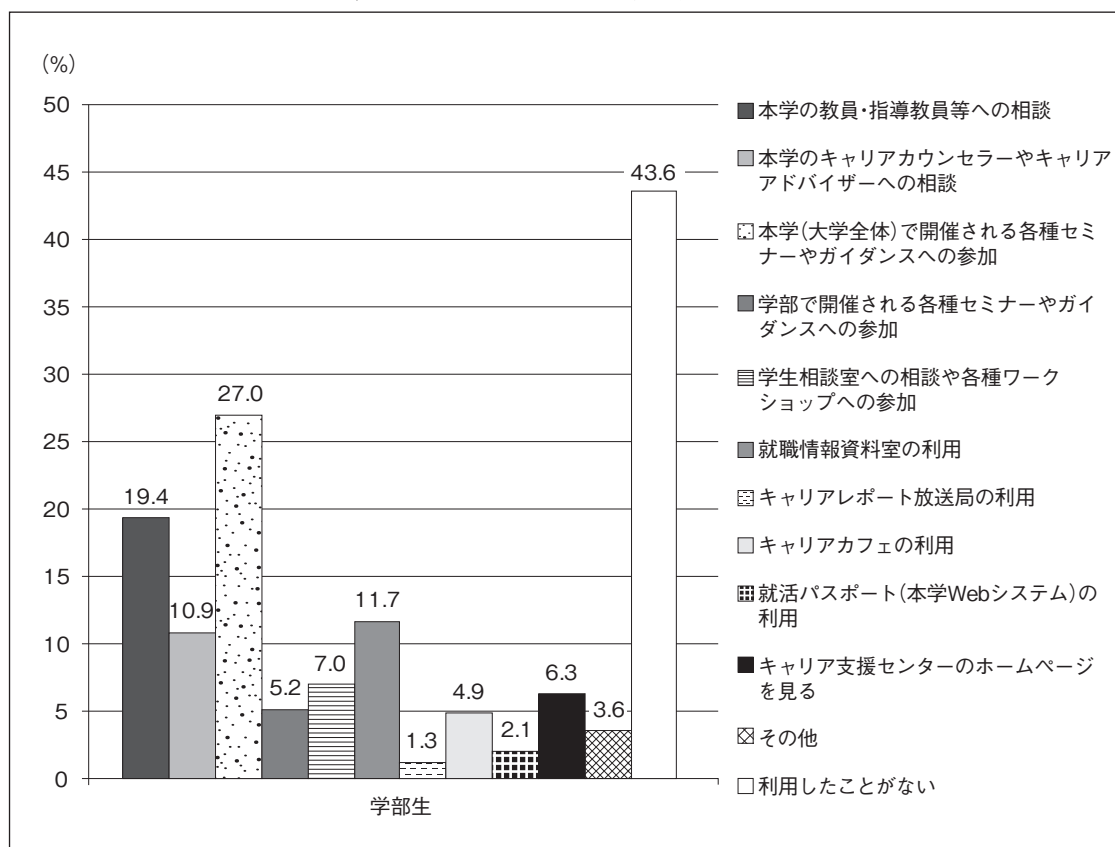
(3)本学のキャリア支援・教育の活用状況について

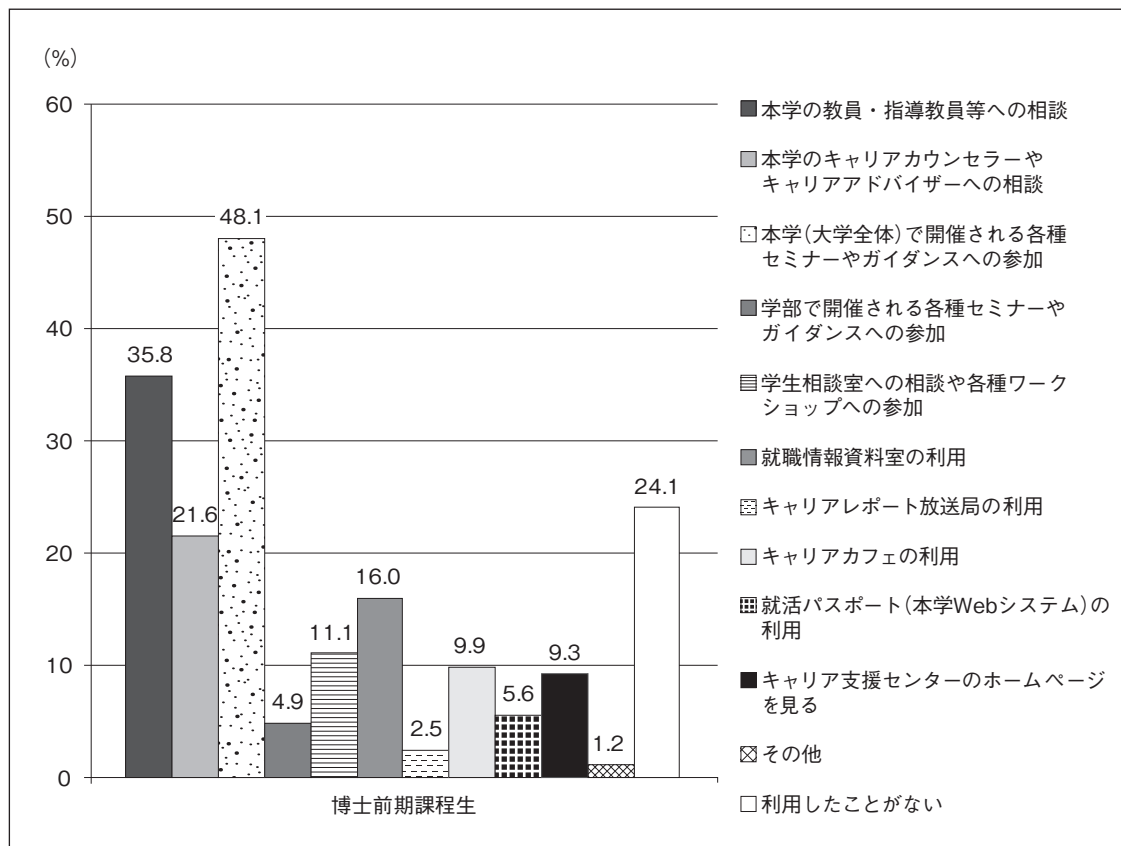
本節では、①本学のキャリア支援の利用状況、②本学のキャリア支援で役立ったもの、③本学のキャリア支援の充実度、④キャリア関連の授業の受講率、⑤受講授業の内訳、⑥キャリア関連の授業の役立ち度を示す。

1) 本学のキャリア支援の利用状況

本学の就職・進学のためのキャリア支援の中で利用したことがあるものについて、「1 本学の教員・指導教員等への相談」「2 本学のキャリアカウンセラーやキャリアアドバイザーへの相談」「3 本学(大学全体)で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加」「4 学部で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加」「5 学生相談室への相談や各種ワークショップへの参加」「6 就職情報資料室の利用」「7 キャリアレポート放送局の利用」「8 キャリアカフェの利用」「9 就活パスポート(本学Webシステム)の利用」「10 キャリア支援センターのホームページを見る」「11 その他」「12 利用したことがない」の12肢の中から複数回答可として回答を求めた。結果を図表1-43に示す。

図表1-43 本学のキャリア支援の利用状況



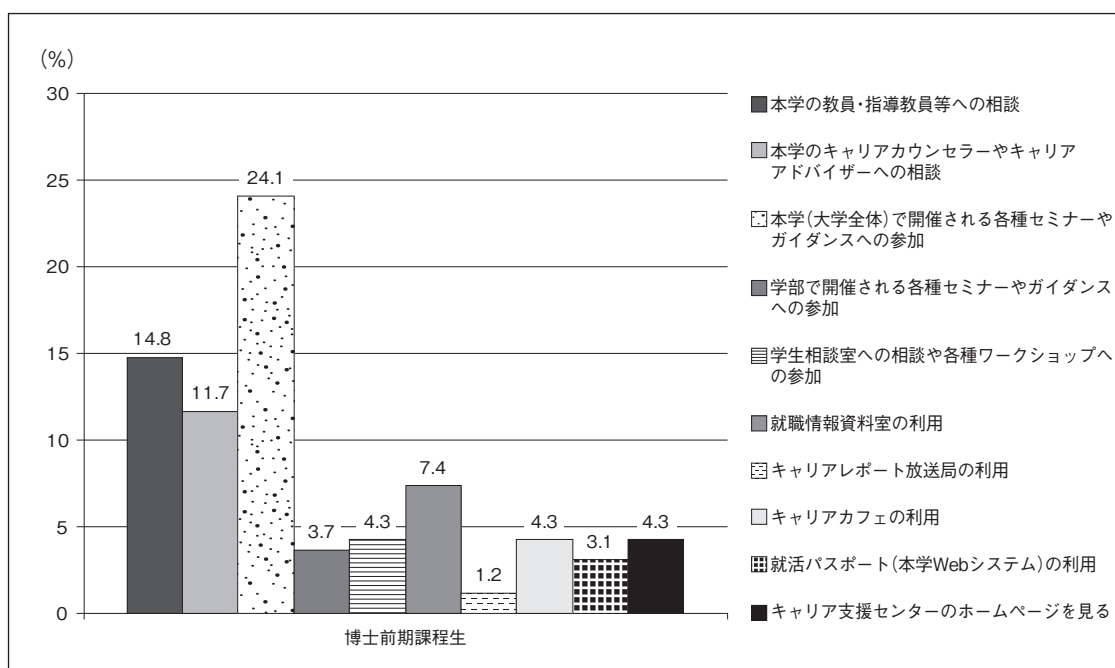
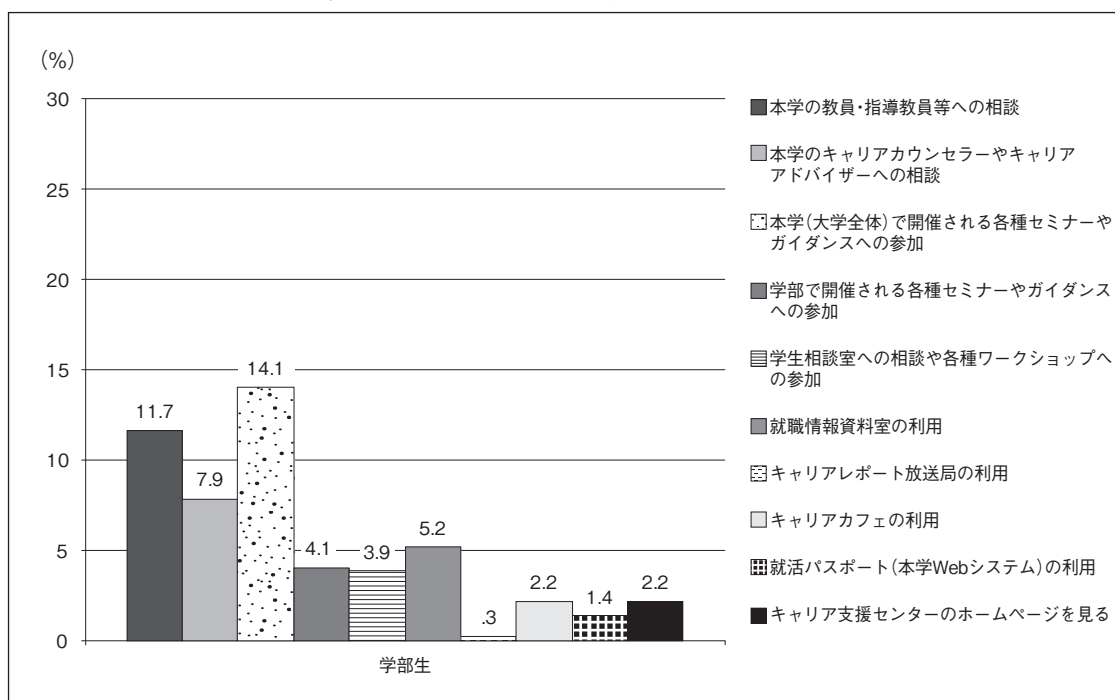


学部生では「利用したことがない」が最も多く（43.6%）、博士前期課程生では、「本学（大学全体）で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加」が最も多かった（48.1%）。このことから、特に学部生は本学のキャリア支援の利用が半数程度に留まっており、学部生へのキャリア支援の利用の呼びかけをより一層行っていく必要があると考えられる。

2) 本学のキャリア支援で役立ったもの

本学の就職・進学のためのキャリア支援の中で利用して役立ったものについて、「1 本学の教員・指導教員等への相談」「2 本学のキャリアカウンセラーやキャリアアドバイザーへの相談」「3 本学（大学全体）で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加」「4 学部で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加」「5 学生相談室への相談や各種ワークショップへの参加」「6 就職情報資料室の利用」「7 キャリアレポート放送局の利用」「8 キャリアカフェの利用」「9 就活パスポート（本学Webシステム）の利用」「10 キャリア支援センターのホームページを見る」の10肢の中から複数回答可として回答を求めた。結果を図表1-44に示す。

図表1-44 本学のキャリア支援で役立ったもの

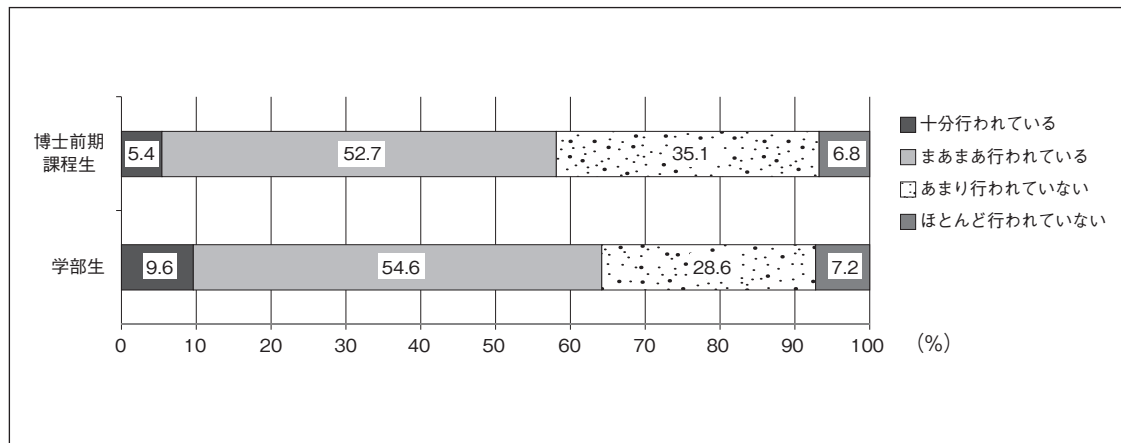


学部生、博士前期課程生共に、「本学（大学全体）で開催される各種セミナーやガイダンスへの参加」が、それぞれ14.1%、24.1%で最も多く、次いで、「本学の教員・指導教員等への相談」、「本学のキャリアカウンセラーやキャリアアドバイザーへの相談」の順に高いことが示された。この結果は、先述した本学のキャリア支援の利用状況に沿った結果であり、役立つキャリア支援は、利用率も高い傾向があるといえる。

3) 本学のキャリア支援の充実度

本学の就職・進学のためのキャリア支援は、十分行われているかについて、「1 十分行われている」「2 まあまあ行われている」「3 あまり行われていない」「4 ほとんど行われていない」の4肢択一で回答を求めた。結果を図表1-45に示す。

図表1-45 本学のキャリア支援の充実度

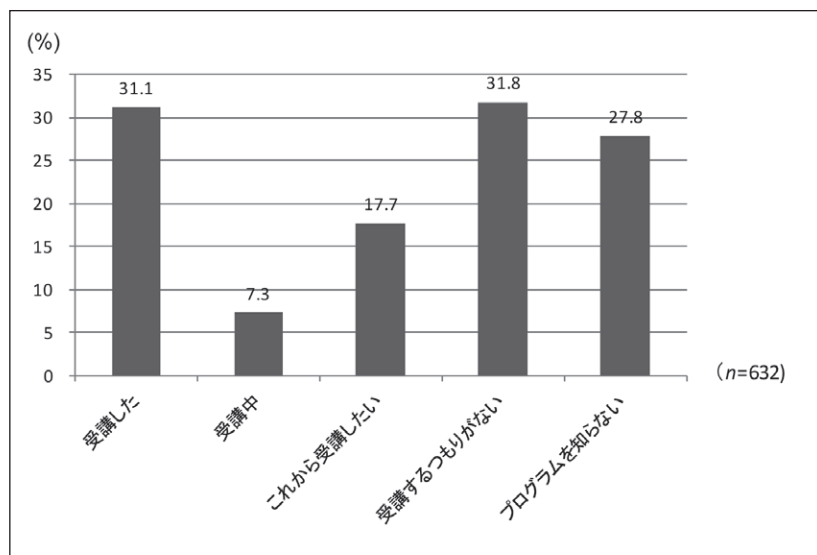


学部生、博士前期課程生共に、「まあまあ行われている」が、それぞれ54.6%、52.7%で最も多く、次いで、「あまり行われていない」が、それぞれ28.6%、35.1%であった。本学の在学学生を対象とした「お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査」(2010)では、本学の学生支援活動で足りないものとして「就職支援」「進路相談」の高さが示されている。これらのことから、本学のキャリア支援が十分とは言えず、今後力を入れることが求められているといえるだろう。

4) キャリア関連の授業の受講率

学部生を対象に、本学のキャリア関連の授業を受講したことがあるかについて、「1 受講した」「2 受講中」「3 これから受講したい」「4 受講するつもりがない」「5 プログラムを知らない」の中から複数回答可で回答を求めた。結果を図表1-46に示す。

図表1-46 キャリア関連の授業の受講率

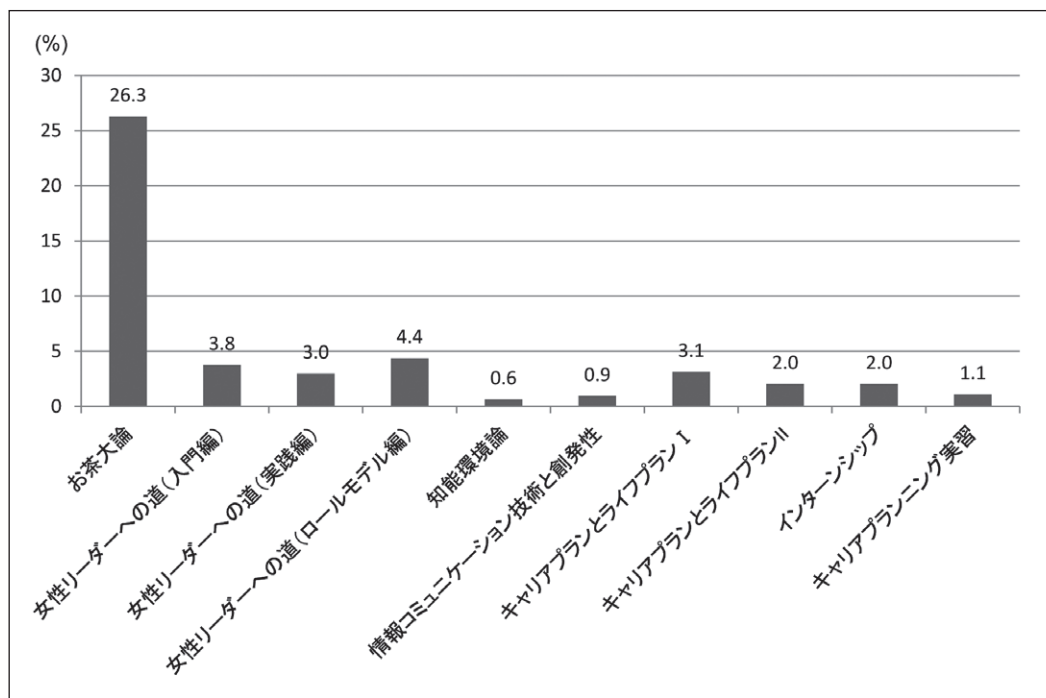


学部生のうち、「受講した」は31.1%、「受講中」は7.3%、「これから受講したい」は17.7%、「受講するつもりがない」は31.8%、「プログラムを知らない」は27.8%であった。複数回答ではあるものの、「受講した」と「受講中」を合わせると受講経験のある学部生は4割近くになることから、キャリア関連の授業の受講率は、それなりに高いといえる。一方、「受講するつもりがない」や「プログラムを知らない」と回答した学部生も、それぞれ3割程度いることから、キャリア関連の授業についての情報提供をさらに行っていくこと、その際に、授業の内容を示すだけでなく、授業が将来の就職活動や進学にどのように役立つかを併せて説明し、授業の意義を呼びかけることが今後の課題と考えられる。

5) 受講授業の内訳

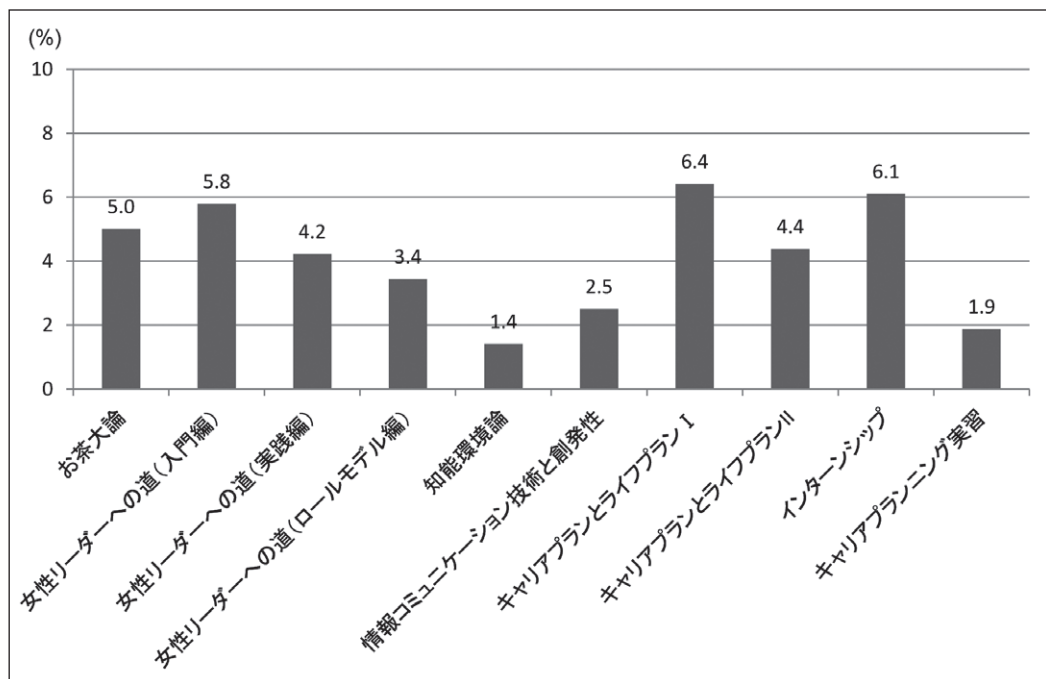
上記の授業のうち、「受講した・受講中」「受講したい」の内訳を図表1-47～48に示す。

図表1-47 受講した・受講中の授業



「受講した」「受講中」をあわせると、お茶の水女子大学論が26.3%でもっとも多かった。その他の授業の受講率は5%以下であった。

図表1-48 受講したい授業

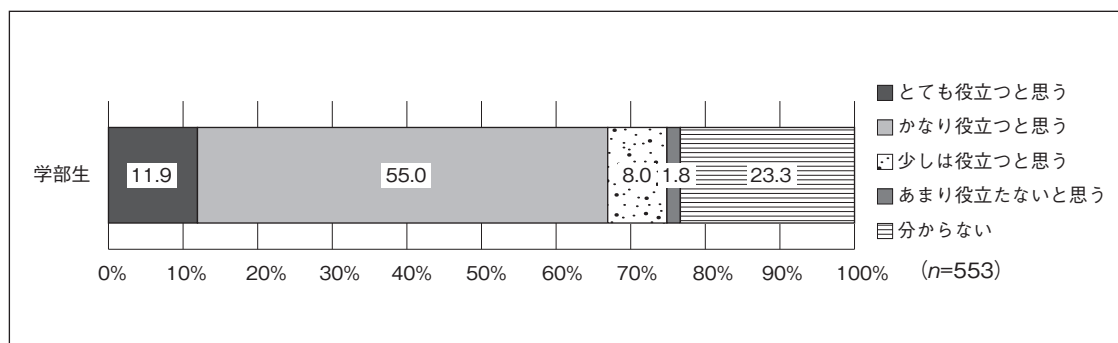


今後受講したい授業では、「キャリアプランとライフプランⅠ」6.4%、「インターンシップ」6.1%、女性リーダーへの道（入門編）5.8%であり、その他の授業は5%以下であった。

6) キャリア関連の授業の役立ち度

学部生を対象に、本学のキャリア関連の授業が役立つかについて、「1 とても役立つと思う」「2 かなり役立つと思う」「3 少しは役立つと思う」「4 あまり役立たないと思う」「5 分からない」の5肢択一で回答を求めた。結果を図表1-49に示す。

図表1-49 キャリア関連の授業の役立ち度



学部生のうち、「とても役立つと思う」は11.9%、「かなり役立つと思う」は55.0%、「少しは役立つと思う」は8.0%、「あまり役立たないと思う」は1.8%、「分からない」は23.3%であった。「とても役立つと思う」と「かなり役立つと思う」を合わせると66.9%であり、7割程度の学部生に役立つと感じられている様子が窺える。

一方、「分からない」という回答も23.3%となっており、授業の意義が分からない、授業の内容が将来のキャリア形成に結び付くのか分からないという学部生もいるものと考えられる。したがって、3) で先述したように、授業の意義を学生に分かりやすいかたちで示していくことで、授業を自分のキャリア形成に役立てていけるようにすることが必要と考えられる。

第1章 「キャリア意識調査」の結果報告

本章では、キャリア意識調査の集計結果を示し、本学の学生のキャリア行動、キャリア意識の特徴をとらえ、今後、より効率的な支援を行うための示唆を得ることを目的とする。

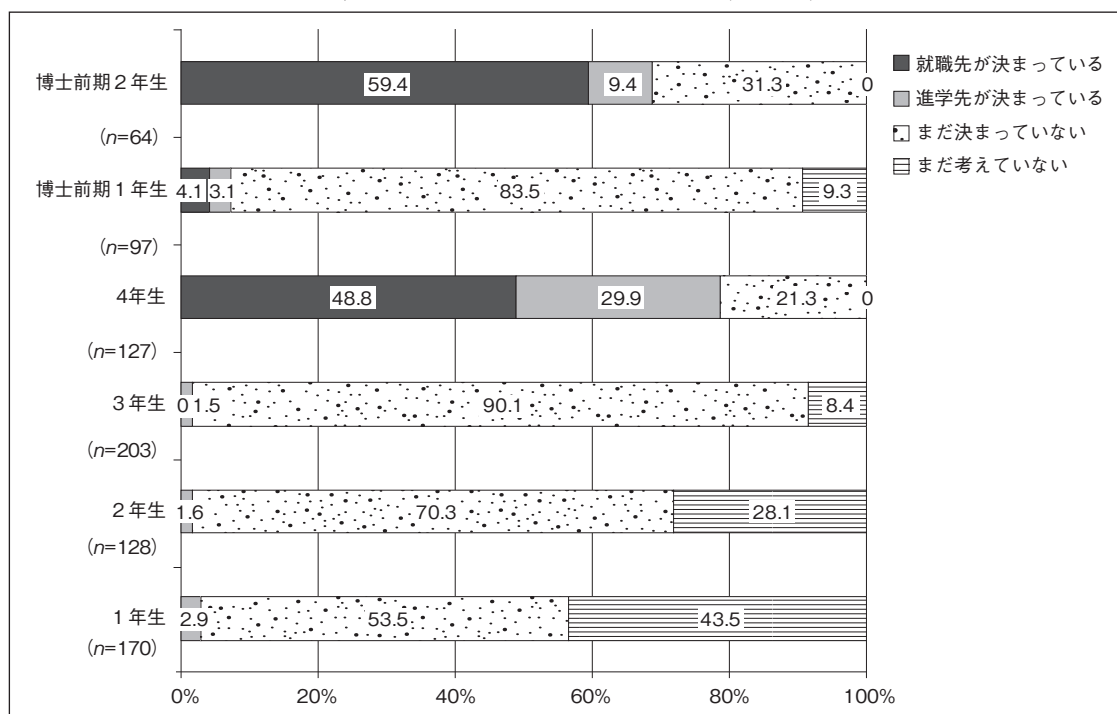
(1) キャリア行動について

本節では、①就職・進学先の決定状況、②進路を考え始めた時期、③進路に向けた準備・活動を始めた時期、④キャリアについて家族の誰に相談するかを示す。

1) 就職・進学先の決定状況

現在、就職・進学先が決まっているか（内定が出ているか）について、「1 就職先が決まっている」「2 進学先が決まっている」「3 まだ決まっていない」「4 まだ考えていない」の4肢択一で回答を求めた。結果を図表1-1に示す。

図表1-1 就職・進学先の決定状況（学年別）



調査実施時である10月～11月時点で、就職先が決まっているものは、学部4年生では48.8%、博士前期課程2年生では59.4%であり、その他の学年では、ほとんどなかった。また、進学先が決まっているものは、学部4年生では29.9%、博士前期課程2年生では9.4%であり、その他の学年では、ほとんどなかった。中小企業を中心に、今後採用を進める企業も多いため、内定率は年度末に向けて上昇する見込みだが、学部4年生の21.3%、博士前期課程2年生の31.3%がまだ決まっていないと回答しており、こうした学生への個別的支援も継続して行う必要があると考えられる。

次に、学部4年生と博士前期課程2年生のみを対象とし、学部、専攻別に結果を示す。

(4)本学のキャリア支援・教育に関する意見・希望について

最後に、「本学のキャリア教育に対する意見、希望があれば、ご意見をお聞かせください。」
「本学の教育全般に関して、意見、希望があれば、ご意見をお聞かせください。」として、自由記述で回答を求めた。分析の結果、本学のキャリア教育の強化のポイントとして、以下の4点が挙げられた。

① 学生への広報強化

学内での説明会やガイダンスなどの広報活動を強化する必要性が挙げられた。さらに、就職活動の仕方や就職活動に必要な情報なども、より広く公表してもらいたいといった要望も挙げられた。

② 進学希望者、大学院生、留学生への支援強化

民間企業への就職支援にあわせて、博士前期課程や後期課程への進学の支援なども、より充実させてほしいといった要望が挙げられた。また、留学生を募集している企業等の情報を公表するなど、留学生への就職支援も、より充実させてほしいという要望も挙げられた。

③ キャリアガイダンスの質・量に関する改善

キャリアガイダンスで民間企業のガイダンスが多数行われているが、それにあわせて、公務員や教職、専門職などのガイダンスや説明会がもっとあるといいといった要望が挙げられた。

④ OGとの関わりの強化

OG懇談会やOG訪問など、OGとの関わりをもつ機会がより多く得られるよう、支援してほしいといった要望が挙げられた。

これらの結果をまとめると、本学のキャリア支援・教育の課題として、①学生への広報や情報提供を効果的に行うこと、②企業への就職支援にあわせて、進学希望者、大学院生、留学生への支援も強化していくこと、③キャリアガイダンスの内容や回数を見直し、改善すること、④学内外でOGと関わる機会をより多く設けていくことなどが課題として挙げられる。